



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

（第八五号）

夏至<sup>げし</sup>

六月二一日

## 暁暗



夏至の日前後になると、夫婦岩の二つの間から上る朝日を撮影しようというカメラマンが大勢二見浦にやってきます。私も昨年、何度か通いましたが、各地の朝日を撮影する「朝日カメラマン」の多いことに驚きました。まだ暗いうちから海辺でひたすら朝日を待っていると、明けの明星が輝いていたり、空の色が刻々と白み始めたり、夜明けのすがすがしいこと。そこに朝日が射し込むと、一気に明るくなり。その光の力強さを強烈に感じました。撮影者にとってもその一瞬が魅力なのでしょう。

ちなみに空の明るさをルクスで表すと、晴天が一万ルクス、曇天が千ルクスと、太陽が出ているかいないかで明るさがかなり異なることがわかります。さらに夜には、月夜が十分の一から百分の一ルクス、星明かりにいたっては千分の一ルクスとされています（金子隆芳『色彩の心理学』）。いかに夜空が暗いかがわかるかと思います。

民俗学者の柳田国男は、闇と月夜について、

「他人おそろし、やみ夜はこわい

親と月夜はいつもよい」

という昔の子守唄を上げ、「灯火のまだ発達していなかった時代には、月夜ほどうれいものはなかった」と著書で述べています。今では月夜をきれいと感ずることはあっても、うれいと喜ぶことはほとんどないようになっています。闇をたやすく照らす電氣を手に入れた現代では、闇がさほど恐くなくなっただけでしょう。

今年の夏至は旧暦の五月十日にあたり、満月に近い月夜ですが、月の入りが午前零時過ぎと、夜中に月が隠れてしまします。昔の人はこの闇を「暁闇<sup>あきぐらみ</sup>」と呼び、大変畏れたといっています。今年はこの暁闇を夏至に体感できればと思っています。

文 千種清美

